

第 9 回 外国語コンテスト

英語部門

英語部門は従来の課題文暗唱から自由課題によるスピーチに変更したが、それでも例年とほぼ同数の13名の参加があった。内容は海外での経験から家族のこと、あるいは自分の夢など多義に亘るものであった。審査員は本学名誉教授の池稔氏と同教授のジョン・ハミルトン氏。上位入賞者は以下の通り。

- 第 1 位 02M3378 白 鷺 “My Gratitude”
第 2 位 00M3405 木村 恵 “We All Are the SEED”
第 3 位 01J1094 皆川沙織 “Traveling”

第 1 位の白鷺さんは中国から日本に来て初めて経験したアルバイトのこと、その店主への感謝の気持ちを語った。第 2 位の木村恵さんは自作の絵本 “The Seed” を原画を見せながら暗唱した。第 3 位の皆川沙織さんはヨーロッパ旅行中の偶然の出会いと、人と出会うことの大切さについて話した。学生は自分で英語の文章を書いてあらかじめ任意の英語担当教師に提出し、指導を受けた後にコンテストに挑んだ。全体的に英文はよく書けており、またそれぞれの主張がよく伝わる優れた内容のスピーチが多かった。上位 3 名のスピーチの本文を以下に掲載する。 (安藤 聡)

ドイツ語部門

2003年度の名古屋語学教育研究室主催第 9 回外国語コンテスト・ドイツ語部門の本選が、2003年 11月18日 (火曜日) の午後 4 時40分より名古屋校舎中央教室棟203教室でおこなわれました。その結果を簡単にですが、報告したいと思います。

今回の課題は、ドイツ語の統一テキスト

„Lernziel Deutsch. Grundstufe 1.” から手紙文を選びました。内容はオーストリアのウィーンに行った留学生アトゥに友人であるレナーテが近況を報告したもので、手紙とはいえ話し言葉に近い文章で書かれていて内容は平易なものです。しかし例年ですと課題テキストは 1 年目で学習する内容から選ばれていたのに対して、今回は 2 年目で学習する内容であり、またコンテストの時期が早かったことから授業ではまだ扱っていない箇所からの出題となってしまいました。したがってすべての参加者にとってはまったく新たに触れる内容となりました。課題の難しさから参加者の数が大きく減少するのではと心配もしましたが、若干少なくなったものの、ほぼ例年通り 7 名の参加者がありました。

審査に当たっては、ネィティヴ・スピーカーである法学部客員助教授であるツォウベク先生に加わっていただき、より正確な審査ができました。審査方法は、ツォウベク先生と私 (島田) の二人でおこない、表現力と発音・アクセントの合計点で審査を行いました。

すでに述べたように授業では扱うことのできなかったテキストにも拘らず、参加者は各自で熱心に練習に取り組んだ様子で、予想を遥かに超える結果となりました。基本となる発音・アクセントに関しては非常に完成度が高く、上位入賞者の間ではさらに高いレベルで表現力を競う争いになりました。非常に接戦となりましたが、結果は、第一位 (優勝) 石川雅英君 (01J1142)、第二位島敬雄君 (01J1399)、第三位木村恵さん (00M3405) となりました。第一位、第二位の石川君、島君はともに昨年度の入賞者で今回も安定した実力を見せてくれました。それから第三位の木村恵さんは大学の授業ではドイツ語を履修はせず独学でドイ

ツ語を学び、非常にきれいな発音を身に着けての堂々の入賞です。

参加者の数が他の言語に比べると少ないとの指摘もありますが、もともとのドイツ語の履修者自体が他の外国語に比べると決して多くはないので仕方のない点もあります。この点を何らかの形で工夫して、次回はより多くの参加者が集まるようにしたいと思います。しかし法学部・経営学部といった社会科学系の学部を中心とした愛知大学名古屋校舎で、これだけ熱心にそして上手にドイツ語を話せる学生がいるということは、ドイツ語の担当教員としてとてもうれしく思います。

意欲的な学生の皆さん、語学教育研究室にかかわっている多くの教職員のみなさんのおかげでこのような意義のあるコンテストを続けることができましたことに、心よりお礼申し上げます。最後になりましたが、審査員を引き受けていただいただけでなく学生の練習を熱心にしていただいたツオウベク先生に改めてお礼を申し上げます。

(島田 了)

フランス語部門

フランス語部門は、例年のごとく国際コミュニケーション学部のラッセン教授を審査員として招き、12月1日に本選を行なった。出場者は26名で、その内訳は1年生4人、2年生12人、3年生10人であった。

審査は予選と決戦の2回に分けて行なった。

予選では、課題テキストの "Le pont Mirabeau" (「ミラボー橋」) を全員に朗読してもらった。このテキストは20世紀初頭の詩人アポリネールの詩で、シャンソンとしても広く知られているものである。内容は平易であるが、一つ一つの音をきちんと発音することと、詩の情感を出すことがポイントになる。この予選を経て10人が決戦に進んだ。

決戦では、あらかじめ与えられていない、その場で初めて見るテキストを朗読してもらった。テキストには、かつて一世を風靡し日本語訳でも歌われたアダモのシャンソン "Tombe la neige"

(「雪が降る」) の歌詞を用いた。初めて見るテキストであるから、普段の学習で綴り字と発音の関係にどれだけ注意を払っているかが試されるわけである。例年に比べて多人数の参加者の中から決戦に進んだ10人であるだけに、ほぼ正確に読めた。その中でもとりわけ上位の人たちはミスがほとんどなく、ラッセン先生の採点表にも高得点が並び、近年にないハイレベルの大会となった。

誰が入賞してもおかしくはなかったが、結局以下の3名が入賞した。このうち白鷺 (パイ・ルー) さんは英語部門の優勝者でもある。また、残念ながら入賞は逃したものの、自ら参加した多くの皆さんの健闘、とりわけ1年生の時から連続3回出場の山田智紀君の健闘にも敬意を表しておきたい。

1位 02M3157 谷本 優

2位 02M3378 白 鷺

3位 02J1334 市川 友香

(田川光照)

中国語部門

第九回外国語コンテスト中国語部門は、2003年11月20日(木曜日)に209教室で行われました。「法学・経営部門」と「現中部門」に分かれ、参加者は合計39名でした。

「法学・経営部門」は課題文の朗読で、2年生以上の課題は「買鞋」(靴を買う)という内容の笑い話でした。簡単そうな文章でしたが、中国人独特の表現や笑い話の落ち所などが日本人には理解しがたいものがありました。例年と違い、課題文には日本語訳を付けませんでした。正しく発音できることが本コンテストのねらいだからです。しかし、ほとんどの出場者は準備するときに自分で一生懸命意味を調べたそうです。発表が始まる直前に汗をかきながら担当者を引き止めて、「先生、先生、この笑い話の落ちはどこですか。僕が一生懸命意味を調べたりしましたが、どうしても分かりません。」と言って来た男子学生のことがとても印象に残っています。また、発表の時、わざわざ作ったぬいぐるみを突然取り出し、会場の

笑いを誘った学生もいました。このような熱い雰囲気の中で、14名の出場者がベストを尽くしました。審査員の教員は選考にひどく頭を悩まされましたが、次のような審査結果を出しました。

- | | | |
|-----|----------|-------|
| 1 位 | 01M3430 | 壁谷 悦代 |
| 1 位 | 00M3405 | 木村 恵 |
| 3 位 | 02SJ1143 | 井上 和幸 |

「現中部門」は、課題部門と自由部門に分けられ、昨年より参加者がぐんと増え、25名もいました。課題部門では、「給大官理髪」（大官の散髪）というタイトルの笑い話の暗誦でした。意味的にはむずかしくありませんが、微妙な変化のある言いまわしが多く、暗記するには手間がかかるものでした。しかし、それぞれの発表には、出場者各々の「ぜったい賞をもらおう!!」という熱い決意が感じられました。厳しく審査した結果、次の三名が入賞しました。

- | | | |
|-----|---------|-------|
| 1 位 | 03C8004 | 水野 尚子 |
| 2 位 | 03C8024 | 西垣 泰史 |
| 3 位 | 03C8006 | 西部 雄治 |

自由部門は自分で自由に発表文をつくり、自分自身が感じた或いは経験した中国の話を紹介しました。今年の参加者はレベルが高く、審査員も聴衆とともに楽しい時間を過ごすことができました。中には昨年に続き 2 年連続出場した学生がいましたが、その発音の目覚ましい進歩には感心させられました。厳しい審査の結果、次の 2 名が入賞しました。

- | | | |
|-----|---------|-------|
| 1 位 | 01C8152 | 寺西 貴子 |
| 2 位 | 02C8193 | 太田 美帆 |

以上の二人は全国大会でもそれぞれの部門で第 2 位と第 4 位というすばらしい成績を収めました。

(中川裕三・鄭 高咏)

韓国・朝鮮語部門

本選は '03. 11. 20 (木) 午後 1:30 から開催。参加者、34 名。今回も車道から 1 名の参加 (03SJ1088 都築理乃) があった。

審査員は陶山信男名誉教授と常石の 2 名が担当。課題朗読文は 1 年・2 年ともに教科書から選定された点もあって、例年以上に朗読がよく消化されていて、ハイレベルな闘いとなった。審査の結果、以下の 3 名が入賞。

- | | | |
|-----|---------|-------|
| 1 位 | 00J1369 | 水谷 元昭 |
| 2 位 | 00M3405 | 木村 恵 |
| 3 位 | 02J1372 | 小島 健志 |

入賞は逃したものの以下の諸君の健闘も併記したい。

白井大介 (03J1173), 浅井宏美 (02M3036), 加地優也 (02M3424), 洪誠脈 (02M3109), 坂井照央 (02J1177), 安井久代志 (03J1071), 水野誠 (03J1071)。

(常石希望)

日本語部門

第 9 回外国語コンテスト「日本語部門」は、211 教室に於いて、11 月 20 日木曜日 13 時 30 分から 2 時間にわたって行われました。法学部、経営学部、現代中国学部の外国人留学生の 1 年生 13 名が、日本という異国での身近な出来事から学んだことについてスピーチしました。多種多様な角度からの日本、および、日本人発見は異国の人でなければ決して気づかない内容ばかりで、どれも興味深く、これまで学習した日本語を駆使して思いの丈を伝えようとする一人一人の学生の真摯な姿は、聞いている者の心に深く訴えるものでした。

この後に 1 位と 2 位の学生のスピーチを掲載します。読んでみてください。

- | | | | |
|-----|---------|------|---------------|
| 1 位 | 03M3431 | 許 愛霞 | 「手打ちそばから見た日本」 |
| 2 位 | 03J1369 | 洪 博 | 「先輩のおみやげ」 |
| 3 位 | 03M3425 | 金 今希 | 「異文化を超えて考えよう」 |

(山本雅子)